

(1) 基本方針

- ・ 中部臨空都市は、伊勢湾の自然環境に配慮して整備されるものであり、自然環境との共生は非常に重要な課題である。
- ・ 埋立造成工事においては、自然石護岸や人工海浜の整備等自然環境に配慮した整備を進めるとともに、埋立完了後においても、自然環境、特に海域環境に最大限の配慮を払った都市の整備運営を行う。

(2) 周辺環境への配慮

ア 大気汚染、騒音等

- ・ 土地利用にあたっては、既存市街地や港湾機能との間に緩衝緑地を設けるよう配慮する。
- ・ 自動車交通については、広域幹線道路、幹線道路等で機能分担を明確にし、円滑な交通を確保するとともに、植樹帯等により歩行者空間との仕分けを明確にする。
- ・ また、鉄道や海上交通等公共交通機関の活用により、自動車交通量全体の抑制を図る。
- ・ さらに、域内交通手段として、小型電気自動車等を活用するなど、環境に配慮した交通体系の確立をめざす。

イ 水質汚濁

- ・ 汚水については、常滑浄化センターで、高度処理を行う。
- ・ 沿岸部については、清掃等、人力による環境保全に努める。

ウ 廃棄物の減量等

- ・ 中部臨空都市で発生する廃棄物については、極力減量化するとともに、再利用、リサイクルに配慮する。

(3) クリーンエネルギーの活用

ア プロトンアイランズ構想の推進

- 中部臨空都市における「プロトンアイランズ構想」は、次世代を担うクリーンで高効率なエネルギーシステムとして水素、燃料電池等に注目し、都市における電気、熱の供給を自律分散的なシステムとして整備運営しようとする試みである。

- この構想にのっとり、各地区、各施設の電力、熱や交通機関の動力等に、積極的に燃料電池を活用したシステムの導入を図る。

イ 自然エネルギーの活用

- その他、各地区、各施設において、太陽光発電等、自然エネルギーを積極的に活用し、環境負荷の低減に努める。

図表 4 - 1 プロトンアイランズ構想の全体概要

